

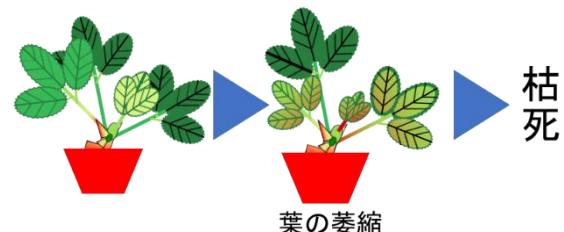
「あまりん」の萎縮症状発生の要因究明

「あまりん」（品種名 埼園い3号）を育苗していると、葉縁が枯れたり、葉柄が短く赤紫色となったりする苗が発生しました。症状が進行すると極端に葉が萎縮して、最終的に枯れてしまい苗を生産するにあたって、大きな問題となっています。

発生条件を明らかにするため試験したところ、高い気温の下で育苗した場合、培土表面に対してクラウン部が埋まった苗で萎縮症状が発生する傾向があり、さらに過湿状態の培土によって助長されることがわかりました。

1 「あまりん」を育苗していると萎縮症状が発生

葉縁が枯れたり、葉柄が短く赤紫色となったりする苗が発生しました。症状が進行すると極端に葉が萎縮して、最終的に枯れてしまいます

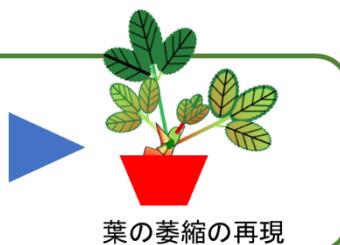


- 葉柄が短く赤紫色となり、葉も萎縮した苗
- 極端に葉が萎縮した苗

2 萎縮症状の発生条件を解明

再現性試験

培土：過湿・適湿
育苗条件 培地温：高温
クラウン部の位置



○萎縮症状の発生条件を明らかにするため、様々な条件を組み合わせて育苗をしました（再現性試験）

○葉縁の枯れや葉の退色、葉の萎縮などの症状が得られました（写真）

○クラウン部が培土に埋まった苗で多く発症し、培土が過湿だと助長されることが明らかになりました

3 萎縮症状を発生させないために

クラウン部を埋没させず採苗して、育苗期間を通じて培土を適切な水分量で管理しましょう